

第1回大府市男女共同参画審議会会議録

日時	令和4年8月19日（金） 午後3時から4時まで
場所	委員会室1
出席者	委員：池田逸夫、笠松千尋、伴浩人、田中剛、杉本涼二、田端美知子、磯部法子、小笠原友子 助言者：岸智子 事務局：健康未来部長、子ども未来課長、若者女性活躍係長、若者女性活躍係主任
欠席者	なし
傍聴人	なし

（敬称略）

1 会長あいさつ

コロナ禍であったが、夏の風物詩、高校野球が行われた。愛工大名電準々決勝敗退したが、いい試合を見せてくれた、来年に期待したい。今年度、初の審議会。3つの議題、審議をお願いします。

2 議題

議題（1）おおぶ男女共同参画プランVI令和3年度実績について

事務局：主な実績について説明。施策の進捗状況を表す指標及び目標一覧について、プラン策定時と比較して数値が低下しているものについて解説。主にコロナ禍によるものが多い。具体的事業については重点施策について説明。

助言者：家事育児セミナーコロナで減ったとあったが、簡単な家事等の動画での啓発はできないか。学生の中で洗濯や料理しないという子が複数人いた。電子レンジ、調味料かけるだけの料理も面倒くさいとのこと。家事・育児以前の問題と感じている。

事務局：石ヶ瀬会館では講座実施内容をInstagramに掲載している。面倒くさいのでしないというのは今後が心配である。

助言者： 家事の楽しさ、ちょっとした工夫でできるなど、そういう啓発が必要。

委員：家事をしない男性は3パターンあると感じている。

①時間あればやる人…働き方改革が必要。

②やる気あるけどやり方分からない人…動画配信効果的。

③やりたくない人…妻などに全部任せている。強制的にやらせるしかない。

③は、結婚始まる前に話し合うのがいいのでは。また、学生へのアプローチも有効と考える。Instagramは、②のみに効果的のように思える。

事務局：公民館等での若者向け料理講座を実施しているが、参加者集めに苦労している。市民意識調査では子どもの頃から手伝いをさせるのがよいとの項目にポ

イントが集まっており、小中学校には男女共同参画啓発パンフレットを配布して意識付けのアプローチを行っているが、なかなか結び付いていない現状がある。

(2) 審議会等委員の女性登用率について

事務局：令和4年4月1日で法令・条例設置の審議会の女性登用率が44.64%。前年は37.91%であり40%を超えた。上昇率20%を超えている審議会がいくつかある。各担当部署が努力をした結果。

委員：登用率40%について、各部署の人たちの努力を感じる。ありがとうございます。

委員：上昇率高く素晴らしいと感じている。上昇理由について、レディースカレッジやセミナー参加者の関わりあるか。

事務局：県のセミナー修了者から委員になった人がいる。また、レディースカレッジ参加者で意欲がある方を石ヶ瀬会館から紹介してもらおうということも過去あった。

委員：委員の候補女性一覧などがあると、定期的に女性を登用できるのではと感じる。

委員：審議会の開催時間を変更するなど、他に工夫した手立てはあるのか。

事務局：委員条件の見直し、人数の見直しを行った。会議開催時間の変更は行っていない。

(3) 女性つながりサポート等事業について

事務局：令和3年度から引き続いて実施している。法律相談は隔月から毎月、相談員支援ではフェミニストカウンセラーによる支援を行う。昨年度相談員として来ていた臨床心理士やキャリアコンサルタントには相談員のスキルアップをしてもらう。また、心と体のメンテナンス講座も実施する。

委員：大学サテライト相談は2大学で年5回ずつ実施。事前予約制だが、なかなか予約がなく、学生に生活について話をしてくれないかと声かけしている状況。学生相談室と繋がるとよいかと思っている。単年でなく継続して実施していく必要がある。相談員は7名いるが、スキルアップの機会が少ないので、良い機会となっている。メンテナンス講座はコロナで心が疲れた方向けに少し外に出てもらえたらと思って実施している。6、7月 各18名参加。

4 その他 事務局説明

(1) 愛知県中小企業女性活躍推進モデル事業について

(2) 申請書等の性別記載欄の削除について

(3) 内閣府所管女性デジタル人材育成プランについて

委員：モデル事業のリーフレット3000部はどこに配布する予定か。

事務局：市内中小企業向けに配布。大府商工会議所会報同封で2,000部。他にセミ

ナーや企業展でも配布していきたい。

委員：セミナーはハイブリッド（会場+オンライン配信）とするのか。

事務局：前回の審議会でもご意見いただいたとおり、ハイブリッドを考えている。

委員：少しの時間だけでも参加できるように、ハイブリットにしていくと良い。

助言者：女性デジタル人材育成について、職場でデジタル機器を使用することは多い。大げさなものでなくてよいので、例えば、一般事務であれば、3日間の研修でエクセルやパワーポイント、ズームの使用方法をマスターしている。そういった初歩的なものの啓発からやると良いのではないだろうか。

事務局：このプランではどこからがデジタル人材かが述べられていない。基礎・初歩を視野に入れつつ、やっていければと考えている。

委員：女性デジタル人材育成プランはターゲットが分かりにくい。基礎的なものは、ほとんどは就職してその職場で覚えていくが、より高度なレベルを求めているのか。明確な目標があると良いと感じた。このプランは抽象的と思う。

事務局：企業ニーズなどが分かりにくい。時間と場所の制約がないため、ひとり親家庭に勧められているところがある。市としてどう取り組むかをこれから見ていきたい。

助言者まとめ：キーワードとして「デジタル化」、「生涯学習」がある。

コロナ禍で大変なことがたくさんあったが、1つの明るい面としてデジタル化があげられる。「生涯学習」では家事・育児は小さい頃からやらなければならないという意見がある。相談員のスキルアップやデジタル学習についても、学び続ける社会を作っていければと思う。デジタル人材育成プランは分かりにくいところはあるが、専門的部分は国が取り組み、自治体は初歩的なところに視点を合わせればよいと考える。生活の実感あるところに焦点をあてることが、自治体のやることと思う。

事務局：コロナ禍のなかではあるが、細心の注意を払いながら、事業を実施していく予定である。女性デジタル人材育成プランは国の資料だが、市町村としてどう生かすかを、ご意見をおききしながら、どう進めていくか等を検討していきたい。

5 今後の予定 第2回は令和5年3月上旬予定